

対象地域：佐賀県

再生課題：湿原の再生

かしばるしつげんちく

檜原湿原地区自然再生協議会

再生
目標

昭和中期頃の湿地植生を再生し、人為活動との適切な関係の再構築を目指す。



檜原湿原は面積約120haの湿地で、貴重な湿生植物、昆虫などの宝庫であり、野焼きや草刈り等の継続的な人為的管理により自然環境が保全されてきました。しかし、緩やかな遷移の進行やオオミズゴケ他特定植物の繁茂、周辺域からの土砂の流入、周辺森林の成長等により、湿原植生の劣化が進行しています。

自然再生の手法

- 草刈り、耕起等による遷移の抑制
- オオミズゴケ他の特定植物の除去
- 堆積土砂の除去
- 湿地周辺林の管理（落ち葉かき、除伐等）

このため、野焼きの継続や流入土砂の除去等、湿地環境を良好な状態へと再生する取組を進めています。また、地元住民が主体となった観察路の整備、企業によるボランティア活動、研究者による調査等、湿原保全に多くの方々に関係する取り組みも行っています。

- 事務局
佐賀県有明海再生・自然環境課
 - 対象地域
佐賀県唐津市
(佐賀県唐津市七山池原字檜原に位置し、佐賀県自然環境保全地域特別地区に指定されている8haの範囲)
 - 協議会 : H16. 7. 4 設立
 - 全体構想 : H17. 1.26 策定
 - 実施計画 : H17. 3.31 策定
- (R7. 3現在)



ハッチョウトンボ



オオミズゴケ堆積による植生の劣化



土砂堆積部分の浚渫



再生事業後に再生した多様な植生



企業によるボランティア活動
(落ち葉かき)